

芸術学専攻 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

芸術学専攻では、美術研究に関する理論系専攻として、実技学習との有機的連携を図りながら、美術史・美術理論の研究者、学芸員、美術評論家や美術ジャーナリスト、文化財保存に関する高度な専門家の養成を目標にしています。

■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

・美術史・美術理論（日本美術史、西洋美術史、現代アート論、美学）および文化財学に関する高度な造詣

■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業論文」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

・所定の在学期間と必要単位修得の確認。

・卒業論文等の評価・・・一人ひとりの学生につき、主査 1 名・副査 2 名の 3 名体制で協議のうえ、専門知識、作品分析能力、論述能力などに関して総合的に評価し、公正かつ客観的に評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

■ 教育課程の編成方針

美術研究に関する学科系の高度な専門家を育成するために、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを編成しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

・1、2 年次には美術史・美術理論の基礎（日本美術史、西洋美術史、現代アート論、美学、文化財学の概説）や基礎実技（平面、立体、映像等）を学び、美術研究の土台を培います。他にも学科関連の多様な授業が開講され、各自の関心に応じて自由に受講し、自主的に研究の幅を広げることができます。

・3 年次からは少人数のゼミ形式の授業を中心により専門的な教育を行います。卒業論文関連の授業では、指導教員による丁寧な個別指導が行われます。

■ 教育課程の評価方針・方法

・教員が各自責任をもって出席数、受講態度、試験等をもとに公正かつ客観的に評価します。複数指導の教科では協議のうえ公正かつ客観的に評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・美術作品の鑑賞や研究、展覧会の企画などに強い関心のある人
- ・美術史、現代アート論、美学、文化財学等に関心の高い人
- ・柔軟な感性と論理的な思考力を持ち、語学力にも優れている人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・歴史に関する基礎的な知識
- ・英語に関する基礎的な語学力
- ・基礎的な論述能力
- ・美術作品についての基礎的な観察力、鑑賞眼

■ 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生の学力や感性、適性や意欲が十分に評価できるような入学試験を実施します。

【一般入学試験】

・一次試験では、大学入試センター試験による学力試験の結果に加え、英語、地理歴史（日本史 B、世界史 B のうち

1 科目選択) の試験を行い、合否を判定します。

・二次試験では、一次試験の結果に加え、小論文、素描、面接の試験を行い、最終合格判定を行います。